

風水害対策

大雨などはわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
 undanから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、
 確実な情報が大事
 その次に迅速な対応



強風注意報・暴風警報

強風により被害が発生するおそれがあると
 予想される場合や暴風により重大な災害が
 発生するおそれがあると予想される場合。

大雨注意報

大雨により被害が発生するおそれが
 あると予想される場合。

大雨警報

大雨により重大な災害が発生する
 おそれがあると予想される場合。

大雨特別警報

数十年に一度の大雨が予想される
 場合。

上記以外に「記録的短時間大雨情報」があります。(1時間雨量が100mm以上)
 注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づら らい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやす くなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土 石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生するお それが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘が させない。	風に向かって歩けない。転倒する 人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒 する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危 険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

- 日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
- 台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

集中豪雨

- 集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
- 発生の予想は非常に困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を3日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるように準備をする。

つねに気象情報には、
 注意しておきましょう！



地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道などが立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。